

NEW AIR, ON AIR.

tv asahi

第69期 報告書

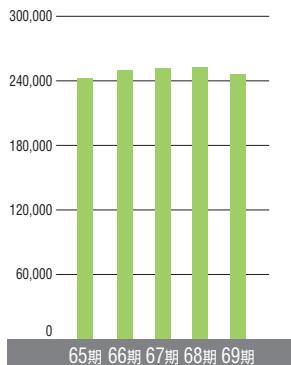
平成20年4月1日 ▶ 平成21年3月31日

tv asahi

証券コード：9409

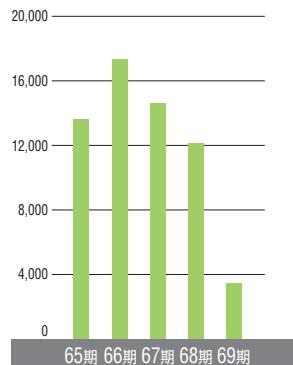
売上高

(単位: 百万円)



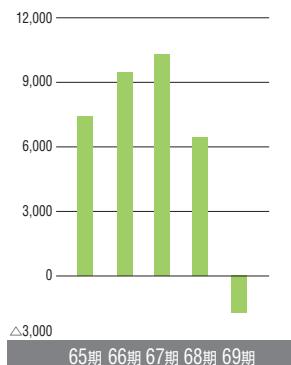
経常利益

(単位: 百万円)



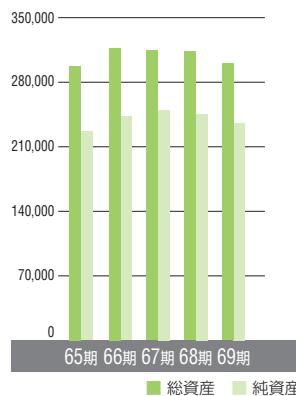
当期純利益

(単位: 百万円)

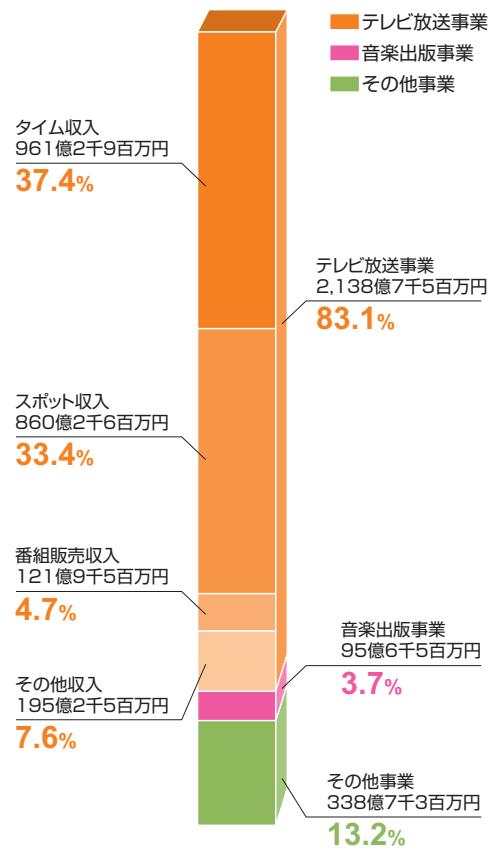


総資産/純資産

(単位: 百万円)



事業別売上構成比



ごあいさつ

皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
第69期の報告書をお届けするにあたり、皆様の日頃のご支援に、心から御礼申し上げます。

景気が急速に悪化した当期は、東京地区のスポット広告の出稿量が前期を大幅に下回る水準で推移するなど、放送業界においても大変厳しい状況となりました。

当社といたしましては、従来にもまして精力的に営業活動を展開し、収益の確保に全力を注ぐ一方で、番組制作費や経費などのコストコントロールにも積極的に取り組みましたが、大幅な減収減益となりました。

事業環境の急激な変化への対応に追われた一年ではありましたが、一方では、開局50周年を記念した数多くの特別番組が高視聴率を獲得し、また、朝日新聞社との関係強化の基盤を築くことを第一歩として他業種との協業・連携を推し進めるなど、多岐にわたる成果を挙げた一年でもありました。

さて、依然として先行きの見えない経済情勢のなか、平成23年7月の地上デジタル放送への完全移行が刻一刻と近づいております。

当社は、こうした新たな時代に対応できる企業へと変革すべく、平成19年度に開始した「新中期経営計画」で掲げた目標を一旦取り下げ、今後2年間を「改革断行期間」と位置付けることにいたしました。

「コンテンツ力強化」という方針は今後も堅持いたしますが、これまでのやり方を前提に目前の数字を追い求めるのではなく、

将来にわたって成長可能な、スリムで強靱な企業体質への変革行動を優先してまいります。

次の50年の飛躍に向け、グループ一丸となって果敢に改革に取り組む所存でございます。

今後も多くのお客様に愛されるコンテンツを数多く生み出し、業績向上による株主価値の増大を目指して努力してまいります。

株主の皆様におかれましては、これからも新しく生まれ変わり続けるテレビ朝日にご期待をいただくとともに、今後とも、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年6月



代表取締役社長

早河 洋

代表取締役会長

君和田 正夫



テレビ放送事業

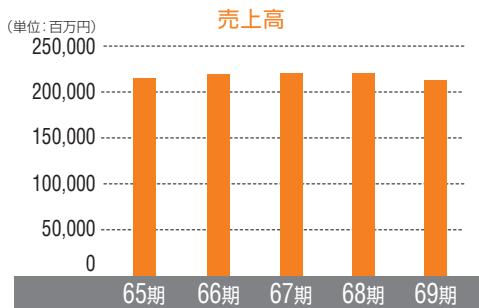
(単位：百万円)

| | 68期 | 69期 | 前期比 | |
|--------|---------|---------|----------|---------|
| 売上高 | 220,481 | 213,875 | △ 6,605 | △ 3.0% |
| タイム収入 | 95,474 | 96,129 | 655 | 0.7% |
| スポット収入 | 97,916 | 86,026 | △ 11,890 | △ 12.1% |
| 番組販売収入 | 12,227 | 12,195 | △ 32 | △ 0.3% |
| その他収入 | 14,862 | 19,525 | 4,662 | 31.4% |
| 営業利益 | 5,704 | △ 1,959 | △ 7,663 | — |

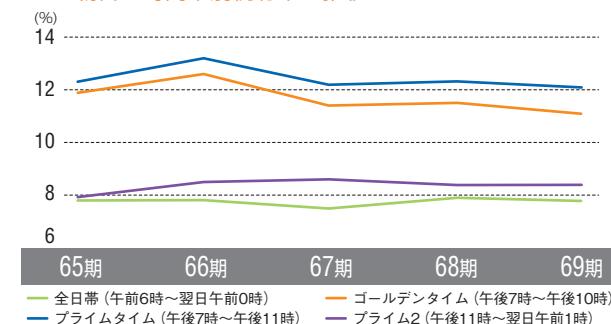
【タイム収入】 経済環境の悪化にともなうスポンサーの固定費削減傾向が進んだため、レギュラー番組のセールスは、前期をわずかに下回ったものの、単発番組では「北京オリンピック2008」のほか、開局50周年記念番組などにおいて積極的な営業活動を行い、増収を達成いたしました。

【スポット収入】 日本国内の企業業績が大幅に悪化したこととともない、かつてないほどの厳しい市況となりました。業種別で、「精密・事務機器」が好調であったものの、売上シェアの大きい「食品・飲料」「サービス・娯楽」をはじめ、「薬品」「金融・保険」「輸送機器」「出版」「住宅・建材」といった業種が大幅に低迷し、減収となりました。

【その他収入】 前期末に連結子会社となった株式会社日本ケーブルテレビジョンなどの実績により増収となりました。



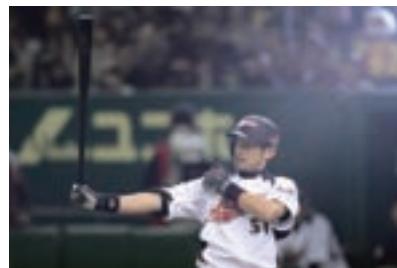
テレビ朝日の時間帯別視聴率の推移



※ 視聴率データは、いずれもビデオリサーチ調べ



「50周年 スペシャル10 DAYS『50時間テレビ』」



「'09 WORLD BASEBALL CLASSIC™ 東京ラウンド」



「相棒 season7」



「クイズプレゼンバラエティーQさま!!」



「ビートたけしのTVタックル」



「いきなり！黄金伝説。」

編成コンセプトと成果

当期は数多くの開局50周年記念番組を編成したほか、最適枠への番組移動やドキュメンタリー枠の開発などにも取り組みました。その結果、通期の視聴率は、全日帯（午前6時～翌日午前0時）7.8%、プライムタイム（午後7時～午後11時）12.1%、ゴールデンタイム（午後7時～午後10時）11.4%、プライム2（午後11時～翌日午前1時）8.6%をマークいたしました。とりわけゴールデンタイムは28年ぶりの民放3位以上、プライム2は平成9年の設定以来最高タイの数字を記録し、4年連続の1位となりました。

【開局50周年記念番組】

平成19年11月1日より開始した開局50周年記念期間が大詰めを迎え、大規模な特別編成を実施いたしました。3月には「'09 WORLD BASEBALL CLASSIC™ 東京ラウンド」を地上波独占中継し、日本×韓国（ゲーム4）の37.8%をはじめ、日本×韓国（ゲーム6）33.6%、日本×中国（ゲーム1）28.2%といういずれも記録的な高視聴率を獲得し、開局以来初のゴールデンタイム、プライムタイム、プライム2での月間視聴率三冠に大きく貢献しました。また、3月第1週、第2週は「相棒 season7」「報道ステーション」などのレギュラー番組も好調で、開局以来初の週間視聴率四冠を

Consolidated Operating Review



「お試しっ!」



「報道ステーション」



「ワイド!スクランブル」

2週連続で獲得しました。さらに、2月1日の開局50周年記念日を含めた10日間にわたる「50周年 スペシャル10 DAYS『50時間テレビ』」では、「ミュージックステーションスペシャル」を皮切りに、20.2%を記録した「SMAPがんばりますっ!!」や「よみこの無人島0円生活」「日曜洋画劇場『パイレーツ・オブ・カリビアン／デッドマンズ・チェスト』」、2夜連続のドラマスペシャル「警官の血」などを放送し、この期間での視聴率四冠を獲得、開局50年の集大成として記念すべき実績を残しました。

【バラエティー系】

「クイズプレゼンバラエティーQさま!!」(月曜夜8時)、「ビートたけしのTVタックル」(月曜夜9時)、「いきなり!黄金伝説。」(木曜夜7時)などで高視聴率を記録しました。また、夜11時台のネオバラ枠が平均視聴率10~12%台をキープし、若い世代を中心に引き続き高い評価をいただいております。

【映画・ドラマ】

大好評の「相棒 season7」がシーズン平均最高視聴率の18.2%を獲得したほか、日曜洋画劇場では開局50周年記念

特別企画の「相棒-劇場版-」が19.5%、「ナルニア国物語／第1章：ライオンと魔女」が18.5%を記録しました。また、「告知せず」が19.6%を獲得したのをはじめ、2夜連続の「氷の華」や「疑惑」など、開局50周年記念ドラマスペシャルも大変高い評価をいただきました。さらに、「必殺仕事人2009」「おみやさん」などのシリーズも好調でした。

【スポーツ】

プロ野球日本シリーズ4試合を放送し、第5戦での20.2%をはじめ、いずれも高視聴率を記録しました。また、当期も「フィギュアスケートグランプリシリーズ」を放送し、特に「グランプリファイナル 男女フリー」では24.7%を獲得いたしました。さらに、「2010FIFA ワールドカップ™ アジア地区最終予選」を地上波独占放送し、日本×オーストラリアが22.9%をマークするなど、高い支持を得ています。

【報道情報】

「報道ステーション」が引き続き安定しているほか、「スーパーJチャンネル」「スーパーモーニング」「ワイド!スクランブル」などのベルト番組も視聴者からの厚い信頼を得ています。



「夜光の階段」



「臨場」



「2010FIFA ワールドカップ™ アジア地区最終予選」

平成21年4月以降の編成方針

平成21年4月改編では、土・日の夜7～8時台を大きく改編いたしました。土曜日は視聴者の多様なニーズに応える2時間のスペシャル枠「サタスペ!」（土曜夜7時）、日曜日には大人向けの教養バラエティー「大人のソナタ」（日曜夜7時）、人気番組「大改造!! 劇的ビフォーアフター SEASON II」（日曜夜7時58分）をラインナップいたしました。

ドラマは、今年生誕100周年を迎える松本清張原作・藤木直人主演でお届けする「夜光の階段」（木曜夜9時）、横山秀夫

原作・内野聖陽主演の「臨場」（水曜夜9時）のほか、人気シリーズ「京都地検の女」（木曜夜8時）、「名探偵の掟」（金曜夜11時15分）を編成。また、1月に放送を開始した「必殺仕事人 2009」（金曜夜9時）は多くの視聴者の皆様からのご要望にお応えし6月まで放送を延長いたしました。

また、スポーツでは佳境を迎えた「2010FIFA ワールドカップ™ アジア地区最終予選」を放送。そのほか「世界水泳ローマ2009」や恒例の「全米オープンゴルフ」「全英オープンゴルフ」など、日本中が注目する熱戦をお届けいたします。

KDDI、朝日新聞社との提携第一弾「EZニュースEX」スタート!

「EZニュースEX」はKDDI、テレビ朝日、朝日新聞社が連携し、幅広いジャンルのニュースや情報をauの携帯電話に向けて一斉同時配信するサービスです。(対応機種:「biblio」[T002] ※順次拡大していきます。)

● もっと“タイムリー”に

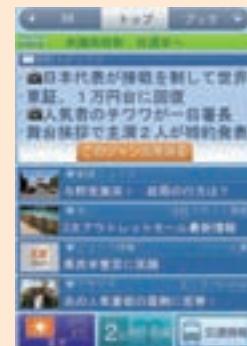
テレビの速報テロップと同時に流れる「超速報」ニュースを配信。ニュースは最短で30分ごとに配信され、携帯電話内のデータは自動的に更新されます。

● もっと“リッチ”に

最新ニュースや天気、交通、エンタメ、スポーツ、生活関連など、たくさんの情報が満載。アナウンサーの「おはようコメント」も届きます。

● より“パーソナル”に

例えば、自分の住んでいる地域を設定すると、その地域に応じた天気・ニュースなどが配信されます。



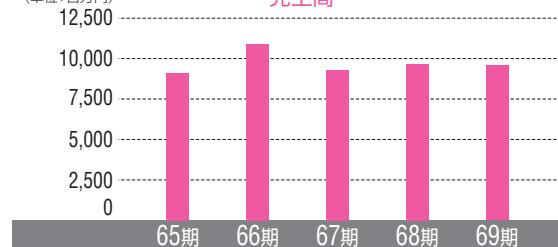
音楽出版事業

(単位：百万円)

| | 68期 | 69期 | 前期比 | |
|------|-------|-------|-------|---------|
| 売上高 | 9,697 | 9,565 | △ 131 | △ 1.4% |
| 営業利益 | 1,763 | 1,541 | △ 221 | △ 12.6% |

(単位：百万円)

売上高



音楽著作権・著作権隣接権の管理事業は、“ケツメイシ”の「ケツノポリス6」、「湘南乃風」のシングル2作品がヒットしたこと、配信の拡大や蓄積した管理楽曲の再開発などにより、堅調に推移しました。

音楽コンテンツ事業は、自社レーベルで“HY”の「HeartY」がヒット作品となり、発売日に合わせた全国でのホールツアーおよびアリーナツアーも好調な推移となったこと、また、2期にわたる“ケツメイシ”のアリーナツアーが好調であったことが収益に貢献しました。



ケツメイシ
「ケツノポリス6」



HY「HeartY」



湘南乃風「親友よ」

その他事業

(単位：百万円)

| | 68期 | 69期 | 前期比 | |
|------|--------|--------|-------|-------|
| 売上高 | 32,123 | 33,873 | 1,750 | 5.5% |
| 営業利益 | 1,705 | 2,477 | 771 | 45.2% |

(単位：百万円)

売上高



■ 出資映画事業

開局50周年記念の「相棒-劇場版-」「レッドクリフ PART1」が大ヒットを記録したほか、「ドラえもん」「クレヨンしんちゃん」などの恒例作品に加え、「仮面ライダー」シリーズ、「戦隊」シリーズをあわせて4作品公開し、いずれも好評を博すなど、大変好調に推移しました。

■ イベント事業

開局50周年記念企画「ブロードウェイ・ミュージカル『スウィング!』」、「オンタマカーニバル09」「徹子の部屋コンサート」をはじめ、恒例の「SUMMER SONIC 08」など数々のイベントを開催し、多くの観客を動員いたしました。

■ ビデオ・DVD化事業

「相棒」「未来講師めぐる」などのレギュラードラマの作品をリリース。またバラエティーでは「内村プロデュース」「アメトーーク」「さまぁ〜ず×さまぁ〜ず」などの番組をDVD化し、いずれも好調な売上を記録しました。

■ ショッピング事業

「セレクトションX」や「ちい散歩」内の通信販売コーナーを中心としたテレビショッピングやインターネットによる販売が堅調に推移いたしました。

■ インターネット事業

携帯電話向け会員制有料情報サービスでは、放送連動コンテンツの充実などにより「テレ朝コンプリート!」や「テレ朝サウンド」など順調な業績を上げております。また、動画配信では人気ドラマ「相棒」の-spin オフや「フィギュアスケートグランプリファイナル」などで新たな広告ビジネスを切り開きました。

■ CS事業

CS放送「テレ朝チャンネル」も自主制作番組や話題作を中心に編成し、加入者数も平成21年3月末時点で254万世帯を超え着実に増加しています。

■ その他

ゲームソフト「とったど〜!よみこの無人島生活。」「相棒DS」などの商品化事業や、書籍「世界の車窓から」などの出版事業にも精力的に取り組みました。



「相棒-劇場版-」
©「相棒-劇場版-」パートナーズ



DVD「アメトーーク」



「ちい散歩」



CSオリジナルバラエティー「ジャガイモン」



ゲームソフト「とったど〜!よみこの無人島生活。」



経営成績

当期の放送業界は、東京地区のスポット広告の出稿量が前期を大幅に下回る水準で推移するなど、大変厳しい状況となりました。

このような経済状況のなか、当社グループは、テレビ放送事業はもとより、音楽出版事業やその他事業での収益確保に努めたものの、当期の売上高は2,471億9千2百万円（前期比2.2%減）となり、営業費用は2,451億7千7百万円（同1.0%増）となりました結果、営業利益は20億1千5百万円（同79.8%減）となりました。

また、経常利益は34億4千4百万円（同71.5%減）となり、当社において、特別損失に投資有価証券評価損や固定資産の減損損失を計上したことや、繰延税金資産の一部を取り崩したことなどにより、当期純損失は17億1千6百万円となりました。

財政状態

当期末の総資産は、前期末比130億4千4百万円減の3,003億1千1百万円、自己資本比率は77.2%となりました。

キャッシュ・フローの状況

当期末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前期末比170億8百万円減少し、443億4千3百万円となりました。

■営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、163億9千7百万円の資金の増加となり、前期に比べ11億2千8百万円減少いたしました。減少の主な要因は、売上債権の増減額が前期に比べて135億4千9百万円増の87億4千4百万円となったものの、税金等調整前当期純利益が106億5千4百万円減の5億8千6百万円となったことや、仕入債務の

増減額が54億5千5百万円減の18億3千1百万円となったことなどであります。

■投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、302億5百万円の資金の減少となり、前期に比べ289億1千万円減少いたしました。減少の主な要因は、当社のその他の関係会社である株式会社朝日新聞社株式の取得などにより、投資有価証券の取得による支出が、前期に比べて213億5千8百万円増の275億6千万円となったことなどであります。

■財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、30億4千4百万円の資金の減少となり、前期に比べ7億1千7百万円減少しました。減少の主な要因は、配当金の支払額が増加したことによります。

次期の見通し

次期につきましては、当社グループの売上高に大きな影響をおよぼすテレビ広告市場は、引き続き大変厳しい状況が続くものと想定されます。当社グループは、テレビ広告収入拡大に向けた取り組みを行うほか、音楽出版事業、その他事業についても収入拡大に継続的に注力するものの、連結、個別ともに、売上高は減少を見込んでおります。

一方、営業費用は徹底したコストコントロールを行うため、通期につきましては、連結、個別ともに、営業利益、経常利益、当期純利益は、大幅に改善する見込みであります。

連結貸借対照表

| 科 目 | (単位：百万円、百万円未満切捨) | |
|--------------|------------------|--------------|
| | 当期 | 前期 |
| | 平成21年3月31日現在 | 平成20年3月31日現在 |
| (資産の部) | | |
| 流動資産 | 132,500 | 167,179 |
| 固定資産 | 167,810 | 146,176 |
| 有形固定資産 | 69,544 | 56,614 |
| 無形固定資産 | 5,634 | 5,166 |
| 投資その他の資産 | 92,631 | 84,395 |
| 資産合計 | 300,311 | 313,356 |
| (負債の部) | | |
| 流動負債 | 49,490 | 52,987 |
| 固定負債 | 14,669 | 14,927 |
| 負債合計 | 64,160 | 67,914 |
| (純資産の部) | | |
| 株主資本 | 234,393 | 239,128 |
| 資本金 | 36,642 | 36,642 |
| 資本剰余金 | 55,342 | 55,342 |
| 利益剰余金 | 142,729 | 147,463 |
| 自己株式 | △ 321 | △ 321 |
| 評価・換算差額等 | △ 2,460 | 2,672 |
| その他有価証券評価差額金 | △ 2,293 | 2,728 |
| 繰延ヘッジ損益 | △ 23 | △ 56 |
| 為替換算調整勘定 | △ 143 | 0 |
| 少数株主持分 | 4,217 | 3,640 |
| 純資産合計 | 236,150 | 245,441 |
| 負債純資産合計 | 300,311 | 313,356 |

連結株主資本等変動計算書

| 当期 目 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日 | 株主資本 | | | | | 評価・換算差額等 | | | | 少数株主持分 | 純資産合計 |
|-----------------------------------|--------|--------|---------|-------|---------|--------------|---------|----------|------------|--------|---------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券評価差額金 | 繰延ヘッジ損益 | 為替換算調整勘定 | 評価・換算差額等合計 | | |
| 平成20年3月31日残高 | 36,642 | 55,342 | 147,463 | △321 | 239,128 | 2,728 | △ 56 | 0 | 2,672 | 3,640 | 245,441 |
| 連結会計年度中の変動額 | | | | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △ 3,018 | | △ 3,018 | | | | | | △ 3,018 |
| 当期純損失(△) | | | △ 1,716 | | △ 1,716 | | | | | | △ 1,716 |
| 株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額) | | | | | | △ 5,021 | 32 | △ 144 | △ 5,133 | 577 | △ 4,556 |
| 連結会計年度中の変動額合計 | — | — | △ 4,734 | — | △ 4,734 | △ 5,021 | 32 | △ 144 | △ 5,133 | 577 | △ 9,290 |
| 平成21年3月31日残高 | 36,642 | 55,342 | 142,729 | △ 321 | 234,393 | △ 2,293 | △ 23 | △ 143 | △ 2,460 | 4,217 | 236,150 |

連結損益計算書

| 科 目 | (単位：百万円、百万円未満切捨) | |
|-----------------|---------------------------|---------------------------|
| | 当期 | 前期 |
| | 自平成20年4月1日 至平成21年3月31日 | 自平成19年4月1日 至平成20年3月31日 |
| 売上高 | 247,192 | 252,746 |
| 売上原価 | 188,343 | 183,348 |
| 売上総利益 | 58,849 | 69,398 |
| 販売費及び一般管理費 | 56,834 | 59,421 |
| 営業利益 | 2,015 | 9,976 |
| 営業外収益 | 1,954 | 2,458 |
| 営業外費用 | 524 | 354 |
| 経常利益 | 3,444 | 12,080 |
| 特別損失 | 2,858 | 839 |
| 税金等調整前当期純利益 | 586 | 11,240 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,763 | 3,589 |
| 法人税等調整額 | △ 45 | 966 |
| 少数株主利益 | 584 | 262 |
| 当期純利益又は当期純損失(△) | △ 1,716 | 6,422 |

連結キャッシュ・フロー計算書

| 科 目 | (単位：百万円、百万円未満切捨) | |
|--------------------|---------------------------|---------------------------|
| | 当期 | 前期 |
| | 自平成20年4月1日 至平成21年3月31日 | 自平成19年4月1日 至平成20年3月31日 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 16,397 | 17,526 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △30,205 | △ 1,295 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 3,044 | △ 2,326 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △ 156 | △ 33 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△減少) | △17,008 | 13,872 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 61,351 | 47,479 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 44,343 | 61,351 |

役員 (平成21年6月25日現在)

| | | | |
|---------|-------|-------|-------|
| 代表取締役会長 | 君和田正夫 | 取 締 役 | 上松 道夫 |
| 代表取締役社長 | 早河 洋 | 取 締 役 | 北澤 晴樹 |
| 専務取締役 | 風間 建治 | 取 締 役 | 秋山耿太郎 |
| 常務取締役 | 神山 郁雄 | 取 締 役 | 岡田 剛 |
| 常務取締役 | 高田 弘明 | 取 締 役 | 北島 義俊 |
| 常務取締役 | 高野 圭司 | 取 締 役 | 権藤 満 |
| 取 締 役 | 堀越むつ子 | 取 締 役 | 堀 鐵藏 |
| 取 締 役 | 大塚 隆廣 | 取 締 役 | 渡辺 克信 |
| 取 締 役 | 渡辺興二郎 | | |

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 常勤監査役 | 有倉 幸生 | 監 査 役 | 小林 孝一 |
| 常勤監査役 | 浅野 正夫 | 監 査 役 | 野間佐和子 |
| 監 査 役 | 荻谷 忠男 | | |

- (注) 1. 取締役秋山耿太郎、岡田 剛、北島義俊、権藤 満および渡辺克信の各氏は、社外取締役であります。
2. 監査役荻谷忠男、小林孝一および野間佐和子の各氏は、社外監査役であります。

会社の概要 (平成21年3月31日現在)

| | |
|---------|--|
| 商 号 | 株式会社 テレビ朝日 TV Asahi Corporation |
| 設 立 | 昭和32年11月1日 |
| 放 送 開 始 | 昭和34年2月1日 |
| 資 本 金 | 366億4,280万円 |
| 本店所在地 | 〒106-8001 東京都港区六本木六丁目9番1号 |
| 従業員数 | 1,231名 |
| 当社の事業所等 | 本社 (東京都) アーク放送センター (東京都) 送信所・中継局 (東京都ほか) : BS (コロンブス) (東京都) |

関係会社 (平成21年3月31日現在)

■テレビ放送事業

●番組制作関連業務
連結子会社

(株) エル・エス・ディー
(株) テイクシステムズ
(株) テレビ朝日映像 (株)
(株) テレビ朝日クリエイト
(株) トラストネットワーク
(株) 日本ケーブルテレビジョン
(株) ビデオ・バック・ニッポン
(株) フレックス
(株) 放送技術社
(株) JCTV-HQ
JCTV America, Inc.
TV Asahi America, Inc.
持分法適用関連会社

(株) 文化工房
(株) メディアミックス・ジャパン
関連会社
(株) 東北朝日プロダクション
(株) 琉球トラス
その他の関係会社

●BS・CSデジタル放送

持分法適用関連会社
(株) ビーエス朝日
(株) シーエス・フンテン

●文字放送、字幕制作・運用

連結子会社
(株) テレビ朝日データビジョン

●WEB、デジタルデータコンテンツ制作・運用

連結子会社
(株) テレビ朝日メディアプレックス

■音楽出版事業

連結子会社
(株) テレビ朝日ミュージック
NPPDEVELOP (株)
持分法適用関連会社
(株) ビーエス朝日サウンズ

■その他事業

●ショッピング業務

連結子会社
(株) テレビ朝日リビング

●放送周辺業務

連結子会社
(株) テレビ朝日サービス

●アナウンサー学校

連結子会社
(株) テレビ朝日アスク

●施設管理業務

連結子会社
(株) テレビ朝日ベスト

●ブロードバンド向け配信業務

連結子会社
プロスタTV合同会社
関連会社
(株) トレソーラ

●アニメーション制作・販売

持分法適用関連会社
東映アニメーション (株)

●日刊新聞発行等

その他の関係会社
(株) 朝日新聞社

国内ネットワーク局 (平成21年3月31日現在)

ANN加盟局

北海道テレビ放送 (HTB)
青森朝日放送 (ABA)
岩手朝日テレビ (IAT)
東日本放送 (KHB)
秋田朝日放送 (AAB)
山形テレビ (YTS)
福島放送 (KFB)
テレビ朝日 (EX)
新潟テレビ21 (UX)
長野朝日放送 (abn)
静岡朝日テレビ (SATV)
北陸朝日放送 (HAB)
福井放送 (FBC)

名古屋テレビ放送 (メ〜テレ)
朝日放送 (ABC)
広島ホームテレビ (HOME)
山口朝日放送 (yab)
瀬戸内海放送 (KSB)
愛媛朝日テレビ (eat)
九州朝日放送 (KBC)
長崎文化放送 (NCC)
熊本朝日放送 (KAB)
大分朝日放送 (OAB)
テレビ宮崎 (UMK)
鹿児島放送 (KKB)
琉球朝日放送 (QAB)

株式状況 (平成21年3月31日現在)

発行可能株式総数

3,000,000株

発行済株式の総数

1,006,000株

株主数

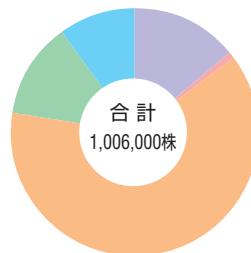
35,284名

大株主

| 株主名 | 持株数 (株) | 出資比率 (%) |
|-----------|---------|----------|
| 株式会社朝日新聞社 | 248,649 | 24.72 |
| 東映株式会社 | 161,842 | 16.09 |

所有者別株式分布状況

| | | |
|----------|----------|----------|
| 金融機関 | 142,518株 | (14.16%) |
| 金融商品取引業者 | 8,117株 | (0.81%) |
| その他の法人 | 629,668株 | (62.60%) |
| 外国法人等 | 126,664株 | (12.59%) |
| 個人・その他 | 99,033株 | (9.84%) |



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 定時株主総会 毎年3月31日

期末配当 毎年3月31日

中間配当 毎年9月30日

そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人および

特別口座の口座管理機関 大阪市中央区北浜四丁目5番33号

住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 東京都中央区八重洲二丁目3番1号

事務取扱場所 住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-176-417

(インターネット) <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/>

(ホームページURL) service/daiko/index.html

【特別口座について】

株券電子化前に「まふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告の方法 当社のホームページに掲載いたします。

<<http://company.tv-asahi.co.jp/>>

ただし、ホームページに掲載できない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、東京都において発行する朝日新聞に掲載いたします。

上場取引所 東京証券取引所

外国人等の株主名簿への記載の制限 放送法第52条の8に関連して、当社の定款には次の規定があります。

定款第8条

本公司は、次の各号のいずれかに掲げる者から、その氏名および住所等を株主名簿に記載または記録することの請求を受けた場合において、その請求に応ずることにより、次の各号に掲げる者の有する議決権の総数が、総株主の議決権の5分の1以上を占めることになるときは、その氏名および住所等を株主名簿に記載または記録することを拒むものとする。

1. 日本の国籍を有しない人
2. 外国政府またはその代表者
3. 外国の法人または団体
4. 上記1.ないし3.の各号に掲げる者により直接に占められる議決権の割合が総務省令で定める割合以上である法人または団体

② 本公司は、法令の定めに従い、前項各号に掲げる者が有する株式について、株主名簿への記載もしくは記録の制限または議決権の制限を行うことができるものとする。



テレ朝の現場

VOL.12

事業局 イベント事業部

イベント事業部は総勢約20名のスタッフからなります。事業部自体の歴史は、開局時期まで遡ることができますが、近年は放送外収入の拡大に積極的に乗り出し、2008年度には約210件ものイベントを実施。10年前の1998年度に9億7千万円だった売上は、49億4千万円と大きく拡大しました。

テレビ局の事業部としてエンターテイメントに基軸を置き、催事、舞台、コンサートを主な柱として活動していますが、夏の三大フェスといわれる「FUJI ROCK FESTIVAL」「SUMMER SONIC」「WIRE」をサポートするなど、コンサートにおいては特に高い評価をいただいております。また、舞台系でもブロードウェイ・ミュージカルの招聘をはじめ多くを実施。催事では「大徳川展」など当社企画の大型催事をはじめ、朝日新聞社と連携したイベントなども実施しています。

しかし、興行ビジネスである以上、様々なリスクもともないます。一番のリスクは収益上のリスクです。お客様に支持されなければ、ダイレクトに赤字に繋がります。また、出演者の病気などによる中止や会場内でのトラブルやクレーム処理



ブロードウェイ・ミュージカル
「スウィング!」



「オンタマカーニバル 09」

など、予期しない事態も起こります。しかし、そこに興行ビジネスの面白さがあります。デジタル時代と言われますが、興行の世界は突き詰めればアナログです。インターネットがいかに普及しようとも、我々が提供する場はリアルな場であり、会場に足を運んでいただくしかその感動をお伝えすることはできません。

テレビ朝日は、2009年2月1日の開局50周年を記念し、番組、イベントともに多数の開局50周年記念企画をラインナップいたしました。イベント事業部でも2007年10月の舞台「オセロ」から2009年3月の「国宝 阿修羅展」まで25本の記念企画を実施。大きな成功を収めています。

我々イベント事業部員に一番必要なスキルは「目利き」です。どれだけ先進的なものでも、独善的では結果がついてきません。今後も人間味を大切にしながら、お客様に感動を与えるイベントを数多く開催していきたいと思っております。

談

長澤 剛史
イベント事業部 コンサート担当



私は毎年8月に行われる夏の洋楽ロックフェスティバル「SUMMER SONIC」を担当しています。「SUMMER SONIC」では2日間でのべ12万人以上のお客様が千葉の幕張に集結します。この12万人以上のお客様に足を運んでいただくため、チケットの販売促進を行う特別番組を制作したり、既存の番組に告知を入れたり、テレビを通したプロモーションを行うのが私の仕事です。

今年の「SUMMER SONIC」は10周年のメモリアルイヤー。開催期間も例年の2日間から3日間へと拡大します。テレビ朝日はこのイベントに出資をし、主催社としてイベントに携わっています。社内からも放送外収入の拡大が期待されているなか、絶対に負けられない戦いです。

今後の課題は何と言ってもテレビ朝日のオリジナルコンテンツを企画していくことです。2009年1月には、テレビ朝日の音楽番組「オンタマ」のイベント「オンタマカーニバル09」を横浜アリーナで2日間、倅田来未、大塚愛、東方神起、Perfumeなど総勢16組のアーティストを集め行いました。番組とコラボレーションしたイベントは、やはり人気が高く、集客力もあり利益確保に大きく貢献します。こういった、テレビ朝日だからこそできる番組発のイベントを積極的に企画制作していきます。